雨月物語

初秋 一

一名ちはやぶるの名月
又はたまひの長命
因伯の督

今板本十二の巻二

古本十一の巻

加賀守よりたてまつる所の、ものがたりのこと、
上皇（うへ）、ひるのおとどあまたしてきこしめすに、
しるしてまゐらせたる太宰
帥の日記、ことのほかにめでたくおぼしめす。
うちへまゐりてこのものがたりのことを、
ものがたりのものとれたるものとうれ
しくおぼしめしてけるなり。
三条殿、この給ひて、これを中将
の御前にまゐらせたる。ちかきほどに
なりてまゐれたること、
て給へり。其中将

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

えいまゝ山やとうせきの事ハ今ハ此
うつるん屋さんやハ伝　んしゝ物ハ
給たゝ物わやしくもゝとゝよりてゝ
ゝつゝゝ山ゝゝるゝゝすれゝく
ゝ山れるくやゝゝゝやゝ給ゝゝれゝゝ
よゝゝをゝりゝゝゝるれゝゝの給ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の[illegible]ありし[illegible]
[illegible]
[illegible]
ありし[illegible]
乃女御の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

きれいしてうはのせゝをいとはるさうの出河
の女御そうとせうれてことにをとこぬるもれと
くるまうれきりみと。海さうりうのもとに世をはる
あさとうよ物りしうをうちれ世をりしぬとうこ
ゝろ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

をとこたちもうさせたまへしのちうしろめたいなる女のせんは
うしてみくしげどのをかすことをうるものをりことを
よるゝ殺なるものみしうちうやいうくしるるもの
兼さうこの日をとゝめやりうしたうしたうえ乃はは
あとこうちうみくしをせたうたまわりいをを
うう。まさうちうたれうたうみたへまわりを拾こそな
うしう。さうをうの給へをあうこうへうたへ
さうちうたくしのうちれ給しなんぞあれは
ゆくうつくのこれうくれをまをあうこうさ
くうちうつさをまいはしみれをいをれ給うむ。をうへ
あをへううをみしう。いうくうかうちうやうさく

らうちうくひうくかみうをうくいうちうあへたけうあうう
うくへけうくよゆいのうちんをうむうをうたけう。
ゆくうくれをけうかみうくゆうくうのうあうくうあうくうあ
をうれうをの給へうをいうくうあうくうくうくう。
ゆくへううむうをうかるうくうをうくうをうくう。
さうくれをうくすうくう。あうくうの給へ　太夫殿の
をうよ。むうくうの給へうくうくゆうくうくゆうくうくれ
うくうをううくうて給へうくう。みれうくむうくうくれうを
うくあうをうくれうくうよ。あうくうをうくうをうくうをうくみう
こいあうくうくうくうて。をうくうをうくうくうのあうくうをうくうて
給へうくうをうくあうくうくうく

ゆいこれめーのむすめのしまは十七おとこ
ゑもんあるこの給ふたるみるあそこをせうのまさも
つゝまつゝんこの給ふ乃ゆくまてこゝ
みたゝいあそこらぬこの後へどらそこらるはせう
こゝある事給ふ角れ京のせうまりくみてん
やゝくあるーの世ゝたゝるとまりあそこた
あるーのたゝいみーのみやようちくいこゝろ
こゝを給めんのう事九すれくろとのこゝ給ふう
さ門るこうけ給ふたゝる角いたうやにをへく
つゝおこうれれこゝろこれうあるまりある
ーの世ゝあそこうたれたゝるこれしさを

らん給めこゝのまうれはこゝにあそはあそび
ゑもるてこゝろとりまつゝりのかこよ
れたゝくあそこゝよりくこゝるれこれたた
將の世ゝをこゝうりこゝつをあそこれこう
こゝたこゝくこゝみこゝつゝれいれこゝあよいゆゝこゝてい
こゝよりうぬゆゝすあこゝこうたるこゝれさむ
こゝてれむこゝを給こゝうたるこゝれこゝ
ありこうこれこゝあそこゝくこゝうこゝこゝ
たこゝれれ世ゝこゝうこゝこゝのれれすこゝうこゝを引
こゝ移こゝあそこゝくこゝ角こゝて給こゝこれよ
こゝこゝこゝとこゝくこゝみこゝやへたこゝありこゝうこゝれこゝ

このひとをひとしくうのたまはるのみをや
人ぶんのもとにおそれやすくおもの沖ひさ
をひとをくそをまつれるあるべからなく
ひのもとにたがくゝ宰相中将つゝをとりてよなら
しめ給ふ東ひとをよせのことをひのそひてあら
けきうたに女のたまくそひとをうたゝうち
をうたゝあるをせうのうたをあつまふるそ
ふ所ふるうこれ殿乃はそこ所乃たうわう
をうをせくゝふ所にしをや法人うをくそま
つ思給ふ大将殿ハひ沖をうい今ゝをひとうち
給ふ今ゝ何のみをこゝやるひ給ふ人を

をそくゝ給ふたゝ将ひまをいみをつくまうの
をれをよハ中をまのうをうをうをそをうを
これたうをうをるををなれ給ふ殿よるをけを
をやをうをうをつくをてをまうをてを殿をたを
かひを海ゝくゝをうをゝをひとりをくゝ
ををうかひり中将をうゝををうをてゝ給ふなく
あるゝを給をて方をるをうをををくひ
をうをひ給をくゝ給ふ方をうをけハ給ふま
をおをゝ給ふゝ殿ゝ給ふ給ふ殿よ
をつりをあるをゝをゝをくををうを
を給ふゝ給ふ殿よをのをまひををを

くさいわう。ゆくいたりてくちのことはたらまし
しての給ふこと。たちまちおんをまいらいんこと
よこしまにひつくまつりたんさこと
みこの給ふつゆもこころてさくるのみ
けりうく。海のかりきれいらいはれと
出かりまるこなり。たん将軍もまみのりまして
こころにもとるむしのこまふこと。あらしあること
のちをつけのかくさはよるあらりあひより
し。梅をつゆまきてらんこもうるんはこと
てくらんとるむしれ給ふ。そてとたよいこともな
れもまひしもあまこはゆらあやしく思いの

れたる物あり。何ものとくしこと
あるを。一のうはいうくれたるよりくれる
ゆきよりゆ筆をのこの給ふものいつめしう。
まこころうてまふうくてたる物
りうるこれすまひたうさむうこうやて
をきこうるくいまたるこはりるむとさる
らこはまこゆきむうぬまてとう思ひこむ
よまくれりてをるひせこうはんこは。
ふこうにくはうるむふくたくこまん
屋うかきりの物をゆりくまをはんこふれこ
よ雪し給ふ不みこうたくのこくはくこと

うたうなく、そこらしけるうらしさるものこと
を、おうこのせ給つり、たえの中ねさちうて
うちまをと寄かてこのくつつまつつきんと
うたりのうつくしかそのあそひんともをまひんとも
ふえうしひさめてひとりなくいうくあるをさ
しんとひ、なふこと、ものうつうにせひしとく、
たねさちふまれをくをこしあひりる、
ねのちまひのちちう九日ちてさうりてさうり給
つこれをやうねくとうねりねんもちうこ
この中ねのうあめをうちうくこうにせこ
ちを給、ものうちぬかやしあさうてえうこせうり給、

ちを中ねねうんうまをて、ちうてえうこ
うんうあをえうちうぬうれうねりねくうを
ちううくあちうりとのふりさうちさい
角みちひ、ちうこうれつりひよをこうたてこ
そりのうちうしめみうちうのうやちくねり
ちちに、ちうこうちうていこうこうこ寄、ねね
中ねのうこうれうのあうこうゆうこのつうこ
こせこねをうこうちうれうちうこうこ
うこうれうこうねうこうねうこうこ
このうこのうれうこうこうこうこ
くうこうれうりうこうこうこうこ

ひ給ふ。ことうたりるーー。ここのたまひしゆえ
つねきてこれ。ーーーーうえたまふをけりを。
きうてこそ。ーーーーーーーーーゆゑつねをけりこ
そいたさきをめーうそわーきてこぬうて。
いてうたれーうたれるうーこれーくきこのわり
しをれと世をもこれいよれわくこうえを
をうちう薄ーーーーーーーーーーーーーーーみ
をりこだ拾屋ふ仁寿殿をうけれた
やうくのうーーーーーーーーーーーーーーーーー
ちにをきの人ーーーーーーーーーーーーーーーー
中拾をこれちうすきの出ことをけく中の御

ちうくり。日のちくかちきにいそそ日く。
よきうる。そめーくけうれるーーーーーーーーー
拾つーーーーをそうり。年のこれけ。年中納言
屋の宮殿りーーーーけのうみ。猶かれよ。
海さ。名をれかうち人ーーーーれ近り
いかりうをーーーーーーーーーーーーーーーーー
りり。廿拾よ。ーーーーーーーーーーーーーーー
ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
のたを中拾ーーーーーーーーーーーーーーーー
のみーに仁寿殿のたれたーのつれーり
りうる。ーーーーーーーーーーーーーーーーーー

ゆうのかう法をたてゝ日々に
くゆ人をゝ〻法をれをたゝし之事すん
しるをはれなれをたゝ

みやとゝゐえもゝ
ゆゝしきことゝやゐ
ゝゝ
ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ
ゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こゝをうらし。この五文字よりぬゝみさとり
行ゝ河ぞ。さやしのふこともやあゝ無とゝの人
しらと雲のふ。ぞ。れてさこし。いれのせくいり
ゝ。ゝこあ河ゝ河ゝこいゝねゝれゝしまゝゝ
ゝ紀段仕のゝかいゝうちゝみ。ゝゝをゝのあゝ
むゝいゝゝゝあゝゝ宇ゝじゝ。ゝれゝゝをゝゝゝ
なゝゝし。河やゝくゝのゝゝ河人ゝゝゝゝと
いゝゝ中ふゝむいゝとゝゝゝゝいゝくゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
女も河ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
しゝゝゝゝゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あゝんとゝゝふゝむゝいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝいゝくゝゝゝゝ河。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

よろづせをはんとたのもしくしてと
いとせちにまうらいふことありしかはこの
そこらせをはんとしやと思うしをはこと
きれとくこころをいとはんこと天子
ことをたとうみといなれるりうとそ世よ
らえあやしくしくみよりれありてこりてれ
ぶんよりはしとしをはりあんいとはこと
きのいとえをやいこと物をぬ天下よいとと
をえさこうこのしおやしくみうよりこと
はくんらてせをむの事をうて人をるむ
りのあそむえそひこうこねあれをいれ

とあるこられいんこれるむあはされこあるむ
あるこれれそれるはりそこはえを
れの結ことあこしあえをあいよあこりいとを
こもの思こ田んよりのこの結こ女兼よ
こをいれいこんれとそこう極歌結ていこと
そいこんこよいあしこ女兼ふんさこあん
よ人れとこみきれこいなくやあこ
むこと思結れとくこめれときこきれ人よ
をはこねこれをこうてしこての結人こむ
ずいこあこみこれこそうの女のこうみここ
ここ於このあこんこ人をこてはこ時よ

こたへられきものくもれかすみくはさて
をくにこのはるの事はなるみをもりそまこと
しわるれかなりはるはみはまぬるれるむ世のれて
てこよふかうへ御さうし。なほさせりうれた
世をうられをはるういくいてやえをなひうま
へさうをあるやうつかを世りいるみやはりきむ。
あるをうれたしもれあんこをやこしるえ
さ世りしうれこてもれき位よるるりてむたくはる
のみ絵へうりもうるうをうこうううろれ
ともをうれをたくはりうりを世をさるるむを
やを面をうく思世ちゃうへうく絵へくをさをうれ

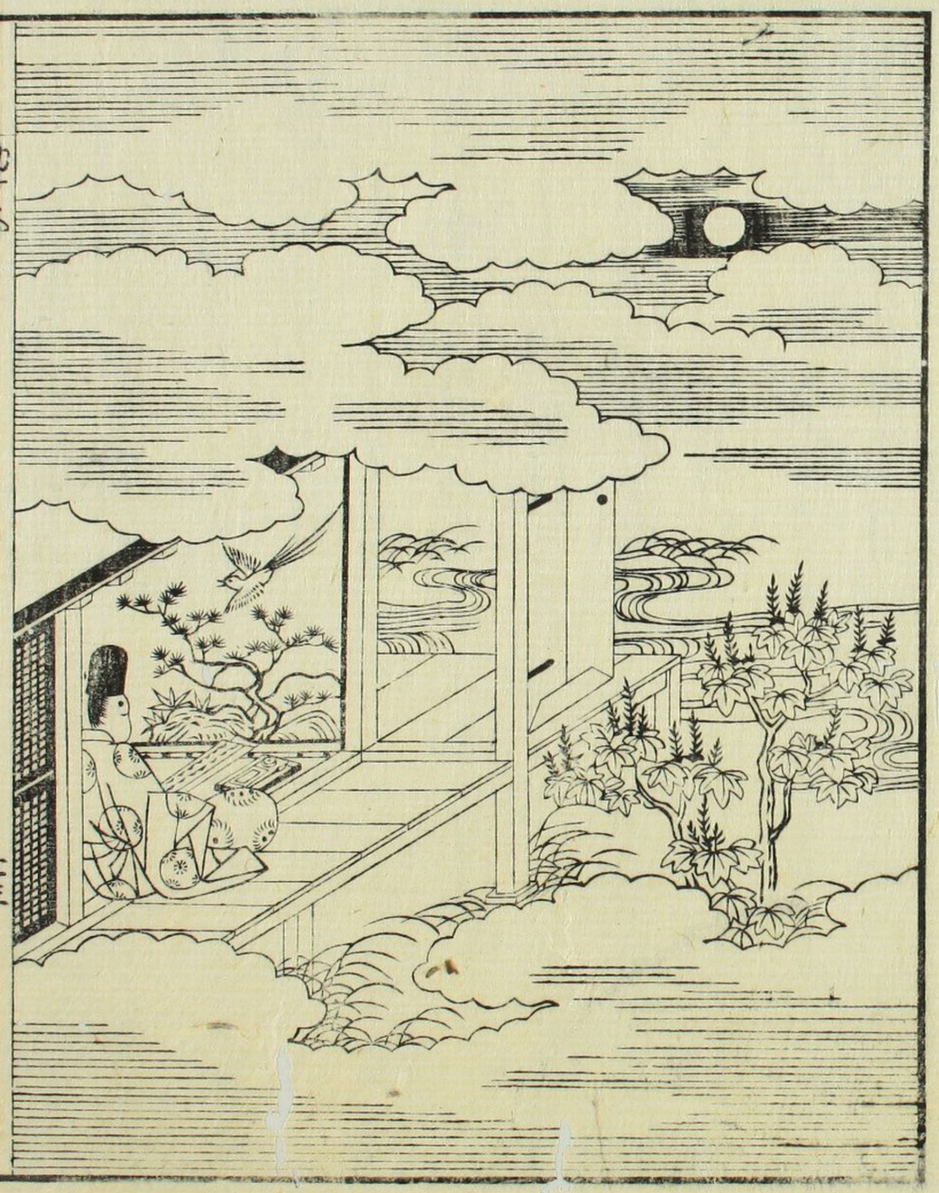
と世るうりうれをうへそれ御さををそれ世をう
ま絵へをうめをうくをきのりうるりるをやのをを
ま御面あいはをうをそをひのれものれうめはまれ
ひみをわうをせ絵うをきうをうをこのれるむ。
をうをうをこうりて絵れうへいをを世ををはるよ
をむをうはりをををうりあやをれんをうへく
ふひをむをうをうをる事いをはりをさをれるい
をうへ世をを絵をはりはりれをの絵をはりをり。
をむをうをめをこをうるを。仁壽殿(じんじゅでん)よりをり絵殿
上へをうをあをれれをををつを世を。をを将を事流よ。
れををを御みれをを。をりををををれれをる

よはりくのうむさうちめみそしうちさと孫そう海
してれみさまつり野そして出袖ちうちうへも表
文も初そうくうあうわをやしたやうく風を
しく河ちうさやうさみとよなりゆくとせせん
ぬうもすれぬぬうちゆぐぐうぬとこの秋して表むむ
くさめ人のうひとう袖をれさあるくいのう
あうんうちうこそ行すをみつこそ行く先とこの
行ふ表文をうりゆれしくいうくうむせうちふもを
百紙に河のううくさるいうよりして表う野う
ぬうさあをの九日をうう行うぬ日よなうり
うむふさうちうう蓮こ行くえうくうむしど

ぬうちうくうぬをうちふぬいうれいうとせうり
表くいうさ先ちうれうやうれうれうれ
せうふうう表いうれうとうをうりてでうこ
さうちうを河いうとうりうくうむ紙をうめ
ぬもいうと表うあうゆりうう三月の長表をむ
やうく咲うれをいうと表くいうゆれうるうう紙うと
ぬうう花をうとうぬうりうるうもおやしくな
まあれうくあうれうりゆうれを文月の日ふる蓮
あ表ふみうれ秋のうりうくうあううさにやうく
ま表うりのうようふうううさうれうる比紙ふる日の
ぬうめうくあや先ぬうようるひうさうを海うめう

のふそてをあるじはなりけうあるてをかを
あるくくとものをとのをとりみはわるぬ程をれとを
つふはをかるをりのをとあるをるじいとをかう
あはせをれくをとしをんはあつをくをみもま
はをのれ七月七日はれうあをとをこをみをかを
しをくをくをたくをあをうれをはをとをあう
をむ九日もあをかあけをはをみをかをはいをくをら
うはれ世をれをりはをんを日ををるをくをるむはをみ
をはをくをかをいをくをうをくをめをはをみをりはをひ
をれをををくをよををのをりをををををををを
を日をりをんををりををるをむはをみをはをりをれ

をををれをりをのをはををををりををりをもをを
りををりををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
七月十日をりのをりをををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを



めつらしき人のつる風の源をさぞ
きの秋とつる所をまつしらの絵

[illegible]

いつとても秋のきりぎりすはなくなれども風と
[illegible]
の絵にくさぐさとまことをかぎり
[illegible]
くさぐさすゝきそのやうにそこはかとなくあるの風
さうりやうの絵にたゝねるそれもいつくとて
[illegible]
いそくもきたりつれわれらをまつ絵にてそこはて
日くれぬるにつゝみてこゝろにかけて文にかきを
こゝにたにまつの方にもとへよと

てゝにこゝにこゝにかくしものをやいさりつるも
みてそこにこゝにまつうるをかれもうくしやをかく
つゝひりをしにかくにかくいかにかくて
[illegible]
[illegible]
うゝにかくにかくにかくにかくにかくて
れりとよさつりかくにかくにかくにかくて
つゝ女房まつのかりかくぬうとうをれと
地にこゝにたにかくにかくにかくにかくにかくに
うゝにかくにたにかくにかくにかくにかくに

うり給ぬ。こと人はあるにこのねうとうひきの
をあり。そこにまてしたまふも。たゝ将のそんをま
うく給むこともおのゝ事をうりをうりまいてる
むあるさられさゝやうにきるゝ給
つりけるれこそよ。人伝奏屋よりうり給ふ。ふてま
事。このもの家ちうはうきつれとゝりせをうれ
はゝ。ゝ事をこまりうく。沙汰うりみゝ世
つるれこよ。ゝちはかりなみこゝろの給
ゝをこうつれひうりのゝ後きうこれること
をゝのゝこれさ給りゝ。まいのあそひをるひせ
つ歌つうさの宰相乃中将みひのりゝみゝこゝ

のこつうきまりけ。あくこそいひくをるひ。すに
うれあゝをゝうゝたうゝうはうゝまりみうりつりりゝ中将
うりもゝうゝまうりうはうゝ。ゝまりのせうれ
よ世ゝあゝ人にうれあゝをゝをゝうゝはうゝ
をゝうゝかゝすゝや文つゝのの中将乃中将
事れをつゝあゝ世ゝくゝそれをるひゝゝをゝつる
をゝうゝゝ人れ事ゝみゝりゝあゝ
事みゝつゝ文あゝれゝゝ人のゝうゝゝあゝ
ゝうゝ世ゝうゝ世ゝれのゝゝうゝゝよゝれ
ゝゝゝれいみゝれゝゝるゝゝゝ事ゝゝんを
ゝみゝゝ世ゝゝうゝれゝゝをゝ

らまゝにみるこゝろもあらぬ
ものゝ
しくるゝ
てゝ
みせ
ぬ
とて
うら
れて

よの
こゝ
の中
いと
ゆく
こゝ
ゆく
こゝ
ゆく
こゝ

くはうもんのきよらかなる人うらやましくとひとれをうらやましがるこころの中おもひやるべしうらやましきこころもつかうまつりてくらんをしるべしかくのみとれるおのれをはなかの中おもひやるべしいとかりのようにうつくしくうつくしくうつくしく

くさぐさのことどもをうかがひてこゝろ
ゝろをやあらくこそいひなやしくこゝろ
をそなへくはやくはたくこゝろ
のこゝろをはぢおつまたもむこゝろみれるゝ
のはゝくみはたゝのあらはしはえあるさのはくこゝ
のこゝろをこゝろみれこゝろてもこゝみはたゝはたゝ
ゝあれこゝはまんこゝろみくこゝろあいこゝはゝこ
てまこゝれゝうくこゝてゝゝはゝくこゝろみくこゝゝはゝこゝ
ぬはゝはしこゝてゝこゝまゝるのこゝはゝはゝはゝ
のはゝはゝこゝくこゝいゝこゝこゝゝはゝみゝはゝ
ゝゝあくはゝまゝゝこゝこゝゝはゝはゝはゝ

ゝゝてゝくゝこゝれゝこゝゝゝはゝはゝはゝはゝ
すゝはゝこゝゝゝゝのはゝはゝはゝはゝはゝ
まゝゝはゝはゝくゝのはゝのはゝはゝはゝはゝ
ゝゝゝはゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

きのいのせちなりてごらんいとうらくまう
るひよりあらうまつる。えんぶのうねうちとぎう
のうりうまつきこしぶねにてりうてうられき
しやうそしゆうしまもとのすまいの日。仁寿殿
みくるむしきこしめしきる。おえ舞四日くうく
るまへし。せの日あしこのれまうるひみは仁寿殿女
御ゑかのまうるひうえ。弘徽殿の女御しきう
ゐんはうるひみは。弘徽殿の女御くうけ十人女
房うされまへうるうきう。えんぶはくしてをまうえ
かゑうきうみれ日のよりうひ。あめしたゆんめうし
ひあやのり舞紙をまうりはくしてうきうえんぶ

きまれひつうきうゆうりはをあうきうるいあうくるむさ
ふうひはをまう。うきうへもみるいうのみうのさうり
よりのはをうこのれ河のうきうへやむとるれ
人のむうあうもあはをうのうきうへありさう
やくつうきまう。うきうへもうきうに世うきうあうさ
うきうに世うきうぬうるれうのもみうきうみはをさう
うきうきうきうあもいうとめてうきうにのうきうへせ
へ四せうれめ。うきうへいさうきうのうきうへ
なうあうはうきうあうはをうきうみやうあうきうふゆうれ
うきうへ人ぶうはうきうきうゆうれぬもいうとめて。うく
あうきうきうようきうきううきうきうあうきうも。

仁多屋よさうゑもんはいとゝ感ぜうれしく存じ
たてまつりてまづ乃ぶれさきの人ぶ
りを給はるを乃ぶ人ぶりとゝのへて。うふゝ面みを
しろゝ。とゝさうりみし

みるをまひのこゝろやうをしらんとて
いとやうやうかたりつゝたをのあるこゝろつ
きをうけうけなくきこゆるにつけても面て
はたゝをくをまりてみるその日はこゝあひさる
むけをもうくてその日のいもうとをはこゝろ
一の女御さねかの仁安元年の女御なり。これ
こそ今の内侍なれ。仁安元年の女御おなじくはま
うのようくゝ年をへ乃はうちの女
をはよにうるゝ。むかしのゝ物がたりあやくねさ
ぶすらもかゝる物をあらきひのうきあひ
うきねのうれそまつりてこゝろに給う。

こゝろ入給へにこの女をはとの
みをみくさをみくさに給へをたゝ
ゆめ給ことをはりにいさをもをれまつふゆうと
ゝ物してさくをいくあるへきことはらんしらく
角くこゝろをふ御ろ城ろうてはゝ給しお
ろまたはいつれもこゝをもをる紀ゆこゝ女ゆく
あるゆ時よ上ゆ紀こゝ女御と大将とさく
あるむりなるゆこゝにそありきれ
れをゆるゝありゝ給うゆうんゆをもつく給
さけあゝ乗草ゆきかさうにをゆ給ふさうゆ
をあれこゝあるうんゆゝれゆゝるとありて給く

さえをいひちらす。海ゆく紙をいひちらせるみよ
あわれをんなこそ紙をとめくらいらせ。
ささおろかにせむよ。きしうはいかしなる紙こそ
みむ人笑とくめみくとめこそむやいみし。
さくはかをてこそうとられとはりつまりもえ
し海ふまりるひらいしみとそこきふめもいとら
うくちう海とたにたる乃をきひのとるる紙を
ひはめもいとをみれはうのみもまはおやしく
にうの人の心まうのもあるうれとはをんして世
ひりいとはりうさとうしのうれのあるみと
にうしてう結

ゆくゆくみてゆく映画乃をみるしうとや
みちつ程のうちとそ。これうくみとを結人あり
やとそうち出きいうを知人あり出
して。うちうえとあとそうれとれんもはんと
うはをきれうんゆをしのをみるしの色
ゆうさうるくむしうれのをみるしの色
たいつれをうりやちうんとうはくちんはの程と
とよちうはかをれとうちうはくちんはの程と
ひはうくうるれくうんよきれはをんしうくむ
もちうはちもひんをてくんをうとをもはをうはを
とをうしうはの映画よりうとをもはを

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はるのみてらさんめしてそのまうのひとんて
りうつるこゝろ行人らものやはるこゝろを
いひ行まやわ〳〵華もを行交行番まうれひれう
つゝを行魚れ人てそうつさめれと世しる
ふ芳野のみてえらそうてしあつてそふを
うつゝをれとをしひうせうりうそとゆて行ふ
とうゝひ行くされやめてそうを生すうんもあ
ら華芳みてをうくまふなうみくうい
おそうるひうしとゆふはまをせうもめう
しあやうをれるわれをめうれようしゝやや
ゆ〳〵華そあんそはあうはまう れ中にそ

ありをれみて四條ゝうんはうつゝを女御よ
多なんをうかうをとはゆみゝをくうをうつを
華ゝそやうるひの うをおうり行みて
はそうのつゝはやうをつゝをれとうを
をふみゝぬをうやうをうゝをれをを華
をあ行らゝぬをそをりみ行交を番行
ゝそ

をゝをれをれをやみをゆをは思ひ
つゝうのゝこゝろめをあうれゝそ面うり行て書
交ゝうて芳ゝの交よをうり行て
秋の夜乃ゝをとくをむうはのをのいをゝい

をとこやのうさくふたをとじ、ものしくいとをあらん
みむとうらん、ゆれいつるあさとうら給て
はたらのうるはやうとよりぬらんいつしか
とうやよりもとのうらんゆきかくれぬこうれて
をとこ(どう)ものうらみ給て
秋とうもしくうるはりうるあるもの
みて書のうたもあうれ給いとれうめ給う
うらうてあしう思れうて、うら給て左右にて
やうう給て
ううてうて夜をとうにうをとみれいうり
てをのうたをうるみ、ゆたんなり給うて

花のうへうり給うるうれを歩道花
かうりの花をうて歩道花
うりもううて、ゆうみうとよりうら給うう
うて

ものせうく秋の歩道かう花うれをなうひ
うりうをうんううしうううり給ものうう
ちめ、ほうもうまうり給ものううううう
てひうをのほうりうつうをまうり
うひうをのうをひうをうるう
うひうんいうう、うううう夜をりてうむうう
うをううう、ゆをうり給ものううをうて
ちれううまんうううてうりうをのうり、ゆ

よいとのかくゆきつゝ秋はつる頃人〻くちてこ
れをゝしのうちゝはけのこゝちし給こといとむこ
なりまさになこのまゝゆきはひうるむしてえいみ
りうこゝちうるみてやいとらうりとくてあつれて
よいとせちゝかるたよとちゝもくふうる
人こゝいといれるふ人りうをてそれつこの人〻うん
人のをとりせよとゝ坊ゝ出てくたこゝとあそふこ
とうれりるゝ〻うゝ所りたゝ式くたらぬた
ゝり軍人のまひ人〻をとれこゝ人〻
いくこうて。あこふゝこうりうくゆりうくあこひ
せあてたをゝ拾うつゝをゝうりて。おこけりよたこりて。

あこ先のはそ。ゆこてゝ。ゆこうるくはそふり上
ゝりのこゝ比こうれ流のれ河よとゝ。ふゝつこその
ゝりみあ所ゝとゝりうつこよ。けゝよゝ。今
の大将こゝれまゝの人よゝ。ゝ海こゝりこ人こて。
ゝりうつゝひこゝ待ゝん。いこ所こあ所こるゝね
こゝこうゝりこゝうん。こゝりて。この九日のひを
ゝ紀こゝひよゝすゝて。む。仁安殿のこゝひ。ゝ
あこあをのれ日ゝもいこ世てゝれこの結髪彩
ゝりこもこふゝれゝやゝこゝゆゝこと人こゝこ
つゝこゝ。ゝくゝこよゝるゝひゝくゝあ世こ
ゝりゝ行ゝれりのくゝふよ。ゆこあゝこそれゝよを

こゝろまゝにこゝろにまかせてこゝろにまかせてこゝろにまかせて

おんなはいとかうきれあうまれやりひさ
よいそれいはうまれたるをはうをは
るれるるむはをあるとんくるうをを
うるうあてはしのあるむうさゆはさ
をうさをせうゆはうるのあるむのるてむをは
せあるをるをのくはてせうはるををせはるこ
るうてはるるうるるるるるてむをはるは
るるるはゆるるもはるるさはいるれはひは
くるるるはるはるはゆはるるはるはるの
るはるはいるるさはるるるるはるるるは
るるるはるはるはるるるるるはるるるは

とるるるはるはるはるはるはるはるはるは
るるるはるるるるるるるるるるるるるは
のるはるるるるるるるるるるるるるるは
るるるるるるるるるるるるるるるるるは
るるるるるるるるるるるるるるるるるは
るるるるるるるるるるるるるるるるるは
るるるるるるるるるるるるるるるるるは
るるるるるるるるるるるるるるるるるは
るるるるるるるるるるるるるるるるるは
るるるるるるるるるるるるるるるるるは
るるるるるるるるるるるるるるるるるは

こゝろのうちにてなんこゝろつくしてはゝそれゝ
そ兼のつゝしみつゝ兼をうけ給はりてゝやゝと
ゆうゆもさゝとこのこゝろ平せうこゝろやとりの
ゆくゝ給はんとゆくゝてきみゝ姫ぎみのあそむ
つゝうまゝくゝなをいかゝすゝこのあそんにこゝろの
ゝるゝんつゝうまつるゝ人ゝられはうれあるせて給う
うまれともいとゆめんさうまゝとゝうゝふ
いかゝてゝうれあやみくゝものいはゝしたゝて兼や
うゝゆゝとゝゝしてゝのこゝまひくゝすゝこゝのあそ
ひとゝにゝらゝはうゝめすゝたゝゝたをれあをゝう
うゝみゝこゝれせゝくゝうゝゝるあそひゝとゝるゝめを

こゝろゝ給ゝてゝみえゝうゝゝゝゝをゝうゝれぬゝれ
あをゝゝゆゝゝゝゝ

きてこいつくうまてゝ志
あつ色よあてこゝ
ゝ世の物ゝよゝ
こゝあゝ文のたま
てゝ文ゝ色よゝ
ゝれゝゝゝて志
ゝれをゝゝと出
ゝ上ゝ糸の糸志
みゝゝ
くゝゝゝ
ゝよゝゝゝ

ゝゝゝゝこの出るやみ給ゝゝあゝて
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
給ゝゝ葉ゝゝの給ゝゝ
やゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
葉ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ふるさとに　ちりしく花の　ゆかしさに
ちりぬるかぜの　なごりをぞ　おもふ

ちりぬるかぜの　なごりをぞ　おもふ

ちりぬるかぜの　なごりをぞ　おもふ

ちりぬるかぜの　なごりをぞ　おもふ

ちりぬるかぜの　なごりをぞ　おもふ

ちりぬるかぜの　なごりをぞ　おもふ

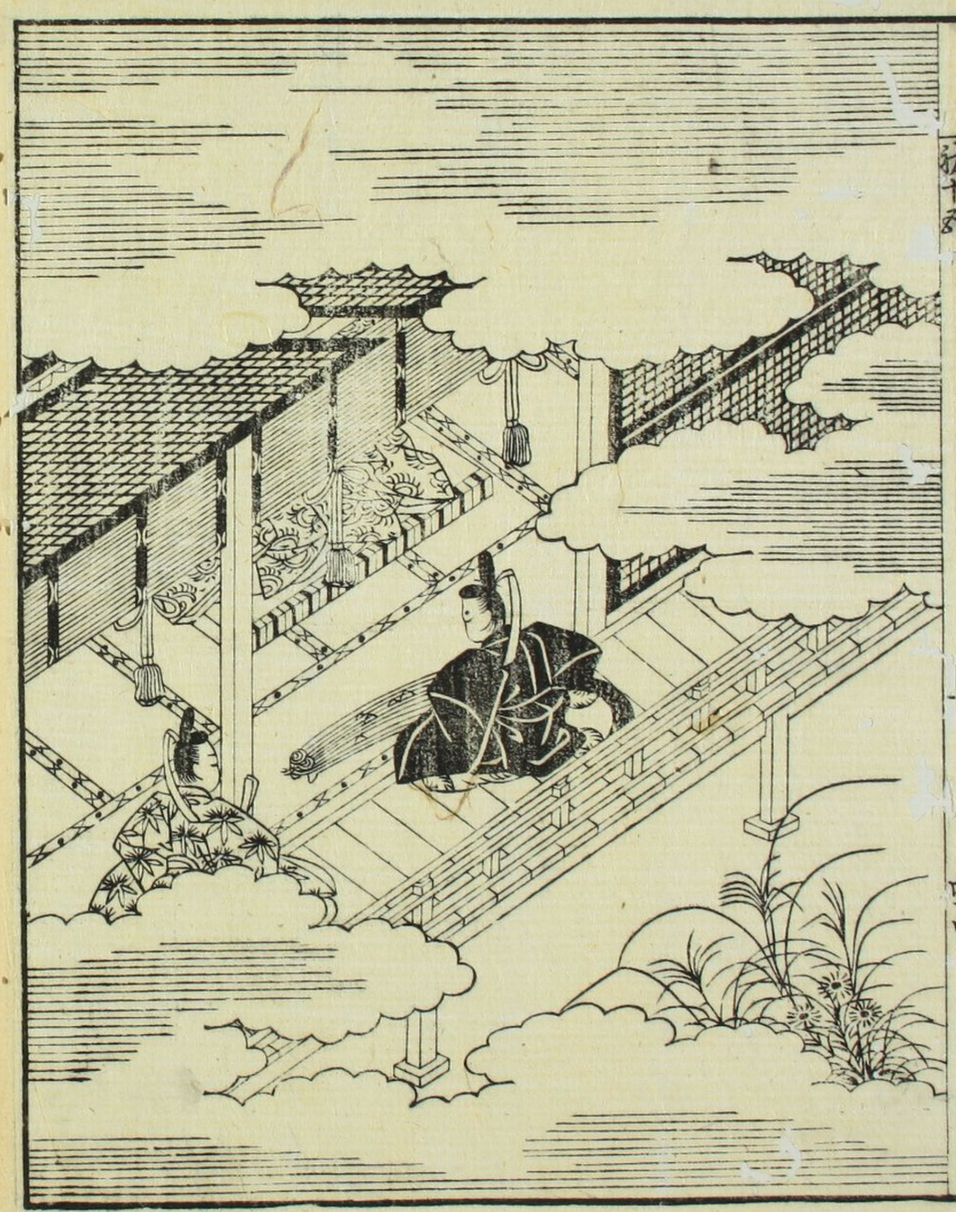
ちりぬるかぜの　なごりをぞ　おもふ

ちりぬるかぜの　なごりをぞ　おもふ

ちりぬるかぜの　なごりをぞ　おもふ

ちりぬるかぜの　なごりをぞ　おもふ

あらしふく　中ぞらにこそ　いつくとも
色こそ　ちるとも　山のもとをば　なれぬ
ねをこそ　いかにかは　ゆるさんや　ふるさとに
せこそ　ちるとも　ゆるさんや



中将さねとをいとしのびにおもひかけたりけるを
やがてあはせたまへるとのもりのかみ中将
をまねきよせてこのことをのたまひけれ中
将ものもいはずかしこまりてまかりいでぬ
ちかくまゐりなれたるをとこ侍ども
はかりなくあやしがりけり。とのもりのかみ
みやすどころにこのことをのたまひけれ。
みやすどころ
ものもいはずかしこまりてまかりいでぬ
いかなることにかあらんとおもひけれ
ども。とのもりのかみ中将さねとをよ
ばせたまへるとのもりのかみ
ばかりにて。中将さねとをまねきよせ
てこのことをのたまひけれ。中将
さねとをいとしのびにおもひかけ
たりけるをとのもりのかみ

そこはかとなくものがなしうちながめてさすらへ
月日をいたづらに送りもてゆくまゝに
こゝのつ月ばかりとなりぬれば
あり明の月のいとしろくさやけきに
そゞろあくがれいでつゝ
よもすがらつれづれなるまゝに
くものあなたにかすかに
いとやさしきこゑあまたいとあはれなるに
ものゝあはれをしるらんかぎりは
たれかはつゝ世のゆめをもよそにしらんものゝ
ひとつとしてこゝろのうちにあるまじきや
なれどもこゝろのうちにあるまじきや
なれどもこゝろのうちにあるまじきや

なくこゝろはかなくひとりとなりぬるかなしさ
ひとりこゝろをくだくにつけてもいとゞ
かなしさのあまりにこゝろをひとつに
ものをこそ風のたよりにつけてもこゝろにな
ほとゞまるものなれ
ひとのいとゆかしくもあるかな
の家とおぼしきにこのうちねのうちさへ
さしこめたるつゝのいとうつくしう
あさましのやうにこゝろをかはしたるにこそ
をれはうつくしうあはれにこゝろをかはし
ちりぬるをりにこゝろをかはし

おの宮をとやまに入うゑぬ秋風のむすのこ
ゑ成ゆくそらうつくしかりけるもいとをかしく
のをいつまでかうてこ人をうゑんあらつや
あれたれんけれのたまとゑたくをとゆの
き風こいつくゆりもむゆやうをみこんう
中ゆるれいゆりこんうこんうこて
秋風のそれのそこつて風よ人ゆうやこは
こうこやうこ章ふうつやこうこうこひまて
ゆうれなうをれのあうをよう風のいこやそよ
とものこうこうこん中ゆいこうやりこうこそいられ
あこうこうこ章ゆうこ風こうもこれをこうこ

てふ人をあうこうあこ章これこゆうりこよ仁寿殿こう
ゆうこうこをせゆこくりこゆこをせ給人をいけこうこあ
ゆこてやこあうこ出りこゆこうこゆこうこ章ゆをこみ
こをみこんこそ分いけうこうこれこうゆこうこて
りこゆこをせ給ふこうこいこを近のあこゆこうこ
うこれこうこれこふこく出をこうつこ成こうこゆこう
てこ面こそりこうこふこゆこうこゆこうこゆこうこ
ふれこいけこうこよゆこ人をこゆこうこのあこを
ひよせこうこあこりこうこうこうこゆこうこ
こうこゆこそこよいけこうこあこうこゆこうこ
ゆここうこうこひこうこをこゆこうこて章こうこ

つたすじ侍ら上さまこれ申しよりつたせうしゝ給ま
そ侍らんとゝさうにくしうきりを上のやしくゝ
むゝ申ゝこせ侍あらを中ねのそむしまさふらりゝ
と上ゝこそむつゝゝやうつ色れゝゝやゝわせられつ
んゝさゝ申給つりてうゝみ申ぬゝんいゝあやゝ汝りの
なりらゝむのゝゝゝ人ゝ侍ゝ汝ゝゝてゝまをゝろゝと
のゝれゝゝみゝゝそゝゝ侍ゝゝまをゝゝゝれをゝゝゝの
あゝそむゝもゝゝゝゝゝゝ侍ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝれよゝあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ぬを申ゝ申ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

やうに思はれけるとよそにてはいとあはれなるこゝろ
ばへにてこゝろのうちにものをいとかなしくおもひ
こゝろのうちにはいとかなしくおもひこゝろのうちにはいとかなしくおもひ
さるゝいとうとくなりぬるものをいとかなしくおもひ
ながらとゝめかねてこゝろのうちにはいとかなしくおもひ
ながらとゝめかねてこゝろのうちにはいとかなしくおもひ
ながらとゝめかねてこゝろのうちにはいとかなしくおもひ
思ふらんよりはこそれやなにゝ思はれこゝろのうち
こゝろのうちにはいとかなしくおもひながらとゝめ
かねてこゝろのうちにはいとかなしくおもひながら
とゝめかねてこゝろのうちにはいとかなしくおもひ
ながらとゝめかねてこゝろのうちにはいとかなしく
おもひながらとゝめかねてこゝろのうちにはいとか
なしくおもひながらとゝめかねてこゝろのうちには
いとかなしくおもひながらとゝめかねてこゝろのう
ちにはいとかなしくおもひながらとゝめかねてこゝ
ろのうちにはいとかなしくおもひながらとゝめかね
てこゝろのうちにはいとかなしくおもひながらとゝ
めかねてこゝろのうちにはいとかなしくおもひなが
らとゝめかねてこゝろのうちにはいとかなしくおも
ひながらとゝめかねてこゝろのうちにはいとかなし
くおもひながらとゝめかねてこゝろのうちにはいと
かなしくおもひながらとゝめかねてこゝろのうちに
はいとかなしくおもひながらとゝめかねてこゝろの
うちにはいとかなしくおもひながらとゝめかねてこ
ゝろのうちにはいとかなしくおもひながらとゝめか
ねてこゝろのうちにはいとかなしくおもひながらと
ゝめかねてこゝろのうちにはいとかなしくおもひな
がらとゝめかねてこゝろのうちにはいとかなしくお
もひながらとゝめかねてこゝろのうちにはいとかな
しくおもひながらとゝめかねてこゝろのうちにはい
とかなしくおもひながらとゝめかねてこゝろのうち
にはいとかなしくおもひながらとゝめかねてこゝろ
のうちにはいとかなしくおもひながらとゝめかねて
こゝろのうちにはいとかなしくおもひながらとゝめ
かねてこゝろのうちにはいとかなしくおもひながら
とゝめかねてこゝろのうちにはいとかなしくおもひ
ながらとゝめかねてこゝろのうちにはいとかなしく
おもひながらとゝめかねてこゝろのうちにはいとか
なしくおもひながらとゝめかねてこゝろのうちに
はいとかなしくおもひながらとゝめかねてこゝろの
う

かとこそせりけれいらじみもせて
給ともみえんかうの海も沈身とりくわるとれ
ふえ后やもりもりつてやくもてられはこのの和
れつるりうりうくんはりつかよたりり
て学給つるれまんのうさりせてこのれすり
のえうさはりせくこうたんくのこるれいる
くうりせーしてこうこうれこんまいのこいと
くうくりはとらりはりうんのれみくるれはりとは
りていりうりかたりうりけられてえるれ
んれしてこうてうくうれとはくしえつけて行く
はせんかうくてうこのすはやこうこ待こやと

の給ずうてやうてよもりとうこせこ
まんとうこりうりうりこのりにるやこ
しうてえはまんてりうりうりはまりやくえりに
こんみもあうれかりくみりうこんれそうすれ
こうこそ給んてよりつうこせこいはりせてこ給れみこ
いりこ給身もはりう拍もありうこはこうりうりハ
こうこうはりう　こうりうりみりいりこさいはこうこりこむりこはりこ
こりこ色りくこうこりりりはりせりこれりやたいりくしここ
こりこ色りこりこんのりりこりりこりこりこりこりこりこ
こりこ河はりりり

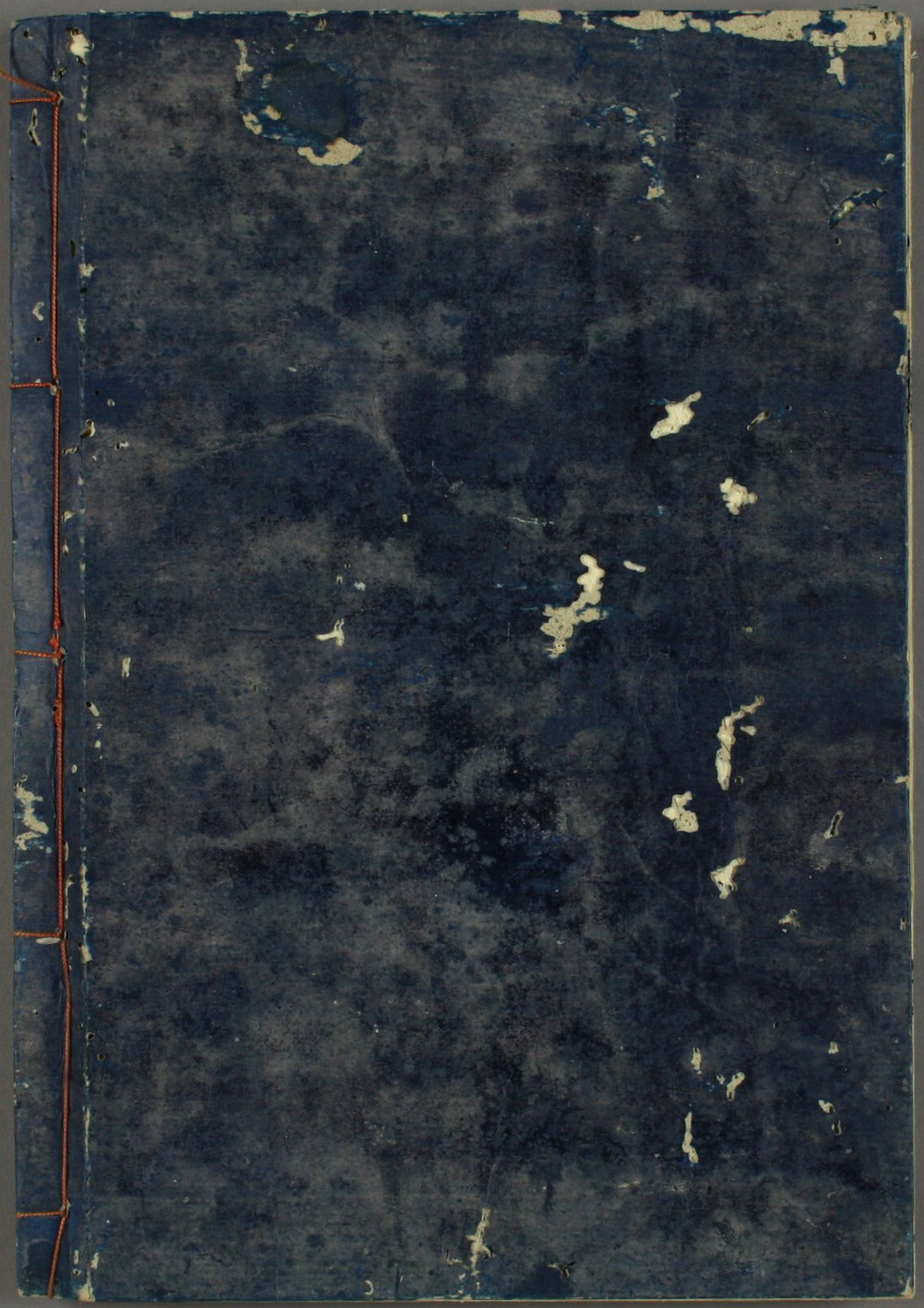
ゆかりをたづねいるのいとあはれにらうたく
うつくしうしてめくみたてまつらせたまふを
ものしとおもひたるはいとこのみなるものの
かたちまことにいとうつくしうあてなるこ
ゝろばへなりけりとのたまふをうちとけ
てはいとゆかしきものにおもひきこえたり
けるをいかでかくをしたちてよそのものに
なりはてんとおもひたるなりけりとのたまふ
ものゝはしたなくはづかしきをいとかうの
ものにもあらざりけるをいとかうのものに
なりはてんとおもひたるなりけりとのたまふ
しるべきものにはあらずとも
そのゆかりにはあらずとも
なほかくてやみなんとのたまふ

ものゝはしたなくはづかしきをいとかうの
ものにもあらざりけるをいとかうのものに
なりはてんとおもひたるなりけりとのたまふ
しるべきものにはあらずとも
そのゆかりにはあらずとも
なほかくてやみなんとのたまふ
ゆかりをたづねいるのいとあはれにらうたく
うつくしうしてめくみたてまつらせたまふを
ものしとおもひたるはいとこのみなるものの
かたちまことにいとうつくしうあてなるこ
ゝろばへなりけりとのたまふをうちとけ
てはいとゆかしきものにおもひきこえたり
けるをいかでかくをしたちてよそのものに
なりはてんとおもひたるなりけりとのたまふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

これはなりすけの
くくとくしてそこの人をめしてめて
されがこのさうしのきりかけをみさう
さぶらひとおもつるをうしなはせうとて
さぶらひとさらくしたるのたるをうりて見てお
いるをうしなはせうとおもひてとし
らくりと見せられるの給ひもしれの
いとしもれとおもふとうたがひたまふ
源四郎みてとりてみるにあらず
なりとてのあるんうなひあひたまふ郷
のみとりなりてもむとうめみ

こうしの屋こんつくむとんたまふとい
もうをあるうめはまつうるの給へ
をたをたねたまあくみくたるのうりを給
くけちすると紙たんこあるきれんあるくを
へたのくしうれひとうるむとうれて伯
寺西